

1 目指す学校像

学力、自主性、規律、人間尊重に留意した教育活動を展開し、生徒の自尊感情を高める学校づくりを行う。

2 本年度の教育目標

- (1) 学習意欲の高揚を図りつつ、基礎・基本となる学力の修得に努め、それぞれが希望する進路の実現を目指す。
- (2) 自主的な生活習慣を養い、生徒会活動・部活動の活性化及びボランティア活動の推進を図る。
- (3) 社会の一員としての自覚と責任を持ち、規律や礼儀、公共性をわきまえ、何事にも公正な判断のできる人間の育成に努める。
- (4) 一人ひとりを大切にする人間尊重の精神に基づいた人権教育及び教育相談活動の充実を図る。

3 評価

( 2 - 1 )

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	自己評価		学校関係者評価		今後の課題		
学習指導	・居心地のよいクラスづくり	・規律ある授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学当初の学習ガイダンスの充実</li> <li>・ベル着の励行</li> <li>・「朝の読書」の実施</li> <li>・家庭学習の充実</li> </ul>	オリエンテーションでの学習に取り組む姿勢の説明。進級・卒業の説明を行ったベル着の意識が定着しなかった。家庭学習時間は、調査の実施、大きく数字に出てくるまでには至っていない。朝の読書は、集中して行えた。	B	高校入学時の学習への不安を取り除きながら、学力差のある生徒への指導が工夫されている。学習規律の徹底・基礎的学習内容の定着の成果は授業中の生徒の様子から感じる。ただ授業中の言語活動の場の設定が少なくなっており、今後一層工夫して、コミュニケーションや周囲の異なる意見の尊重等、生徒が関わりあう場を通して力を伸ばしてほしい。課題別研究会の発表から、生徒達の取り組みに真摯な姿勢が見られる。先生方の指導の成果が表れていると思う	A	家庭学習時間を延ばす。		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着と学力向上</li> <li>・自主的学習習慣の定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加力補習、添削、個別指導</li> <li>・習熟度別学級編成</li> <li>・週明けテスト</li> <li>・放課後の自主学習会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週明けテストや放課後学習会によって学習に対する意識が高まった。</li> <li>・加力補習への参加率が高まってきた。</li> <li>週明けテストの実施後、1年生不合格生徒に対する補習の実施。</li> <li>・習熟度別学級編成によって一定の学習効果が得られている</li> <li>資格取得に向けて補講の実施</li> </ul>	B			週明けテスト合格率80%以上を目指す。		
	・授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲を喚起する授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒参加型の授業</li> <li>・わかる授業</li> <li>・家庭学習の充実に向けた授業改善</li> </ul>	講演などによる興味関心の喚起を行った。また、実習・実験を取り入れた授業展開。言語活動の充実、音読中心の授業の展開など生徒が自ら取り組めるような授業の構成を工夫しているが、学力向上や自主的な家庭学習にはつながっていない。	B			平常点を家庭学習につなげる工夫、授業評価について、統一していく必要がある。成績評価基準について協議したが、現行のままで行うこととした。	B	授業評価を統一的に実施する。
	・授業評価→授業改善のシステム化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価システムの構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価システム構築のための研究</li> <li>・評価の在り方や課題の工夫</li> </ul>							
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路保障</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力の育成</li> <li>・生徒が希望する進路の実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な生徒発表の場の設定</li> <li>・3年間を見通した進路学習の計画・実施</li> </ul>	課題別発表会においてグループで調査、研究発表をすることができ、生徒のコミュニケーション能力が高まった。3年生に関しては、ほとんど希望進路を実現できた。進路関係の行事については、全学年で計画通り実施できた。	A	A				

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	自己評価		学校関係者評価	今後の課題
保護者、地域住民等との連携	・地域や中学校への情報発信が不十分であった	・PTA活動の活性化 ・開かれた学校づくり	・PTA役員を一人一役で、多くの保護者に学校との連携を密にする ・ホームページ、学校だより等の充実	P T A総会や各種行事への参加率が期待するほど上がっていない。しかし、予定したP T A行事はすべて行うことができた。学校だよりについては、計画通りに行えた。ホームページの更新がなされていない。	B	文化祭や課題別研究発表会でも地元中学校の参加があり、地域との連携を深めたと思う。広報で学校の様子が分かりやすくなった。	A ホームページを早期に更新する。
生徒指導	・服装・頭髪指導の徹底	・規範意識の向上と規律のある学校生活	・家庭と連携し、服装・頭髪指導を徹底する ・朝の校門指導等による挨拶の励行と服装指導 ・昼休みの時間の校内巡回	昇降口指導や昼休みの巡回指導等で継続的に、服装指導等を行って来たが、まだ徹底できていない項目もある。	B	体育祭や部活動、その他学校外の行事への参加体制や行事に見られた積極性や態度等に好ましい上級生と下級生の関係などがみられ、大変良いと思った。規範意識は向上しており、服装もずいぶんと良くなっている。保護者の協力が得られにくい場合も多いとは思いますが、連絡を取りあって、共通認識での指導をしていただきたい。	B 全教職員の一致した生徒指導体制を構築する。
	・遅刻防止	・遅刻、欠席を減らす	・保護者の協力を得て、遅刻、欠席防止に取り組む	決まった生徒の遅刻が多い現状である。			
	・掃除の充実	・環境美化に努める	・掃除監督の徹底	トイレ等の掃除が徹底出来ていない			
課外活動	・ボランティア活動の充実	・生徒会活動の充実	・地域でのボランティア活動 ・学校行事への積極的な協力 ・各種委員会の活性化	ボランティア活動へ積極的に参加できた。生徒会は様々な活動を行い、その中で県の児童生徒表彰を受けた。また、e c o活動にも取り組み評価された。	B		B 体育会系の部活動を活性化する。
	・部活動の活性化	・部活動の活性化	・予算的援助 ・長期的展望を持った顧問の決定 ・入部率の向上	体育系の部活動が行われていない現状がある。			
人権教育 生徒支援	・全教職員がカウンセリングマインドを身に付ける	・人権教育の充実	・お互いを尊重する良好な人間関係ができるよう支援する ・自尊感情を高める取組の推進	心の冒険をはじめ仲間づくりを支援し、自尊感情を高める取り組みができた。	B	各行事に見られた上級生、下級生の関係など、生徒達の人権意識は良好な状況が窺われた。生徒の表態が穏やかで明るくなっていると感じる。	A 生徒支援委員会の活動を継続する。(生活指導部との連携強化)
		・教育相談の充実 ・生徒支援の充実	・研修会などへの積極的な参加、校内研修の充実 ・生徒支援コーディネーターをキーパーソンとする連絡支援体制の整備	生徒支援にする校内研修の実施は2回に留まったが、情報共有は、職員会などで適宜行えた。生徒支援委員会は定期的開催できた。教育相談に関してはスクールカウンセラーと連携しながら取り組めた。	B B		
危機管理	避難所としての受け入れ	・南海地震に備える	・合同避難訓練の実施 ・校内に備蓄品等の準備 ・関係機関との連携	・避難訓練は3回実施したが、3回目の避難訓練が、火災避難訓練のみに終わってしまった。 ・防災の日に地域・行政と合同で避難所設営訓練を行えた。	B B	地域と一体となった防災訓練など危機管理は十分できていると思う。	A 生徒防災委員会の活動を活性化する。